

令和4（2022）年度  
飛び入学に関する自己点検・評価報告書

東京音楽大学  
令和5（2023）年7月

## 飛び入学に関する自己点検・評価の実施状況

実施時期：令和5（2023）年5月～6月  
実施体制：学務部入試課及び自己点検・評価委員会が協力して自己点検・評価を実施し、内部質保証推進委員会に結果を報告した。  
評価結果の公表方法：大学ホームページにて公開する。

### 1 飛び入学の趣旨等について

#### 1-1 飛び入学を実施する趣旨

一人一人の能力・適性に応じた教育を進める観点から、音楽の分野で特に優れた資質を有する者に対し、早期に本学にて高度な専門教育を施すことにより、優秀な人材を育成すること。

#### 1-2 飛び入学をする学生に求める資質

国内外のコンクールにおける入賞歴など、音楽に関する卓越した才能があるとともに、専門実技・教養研鑽への意欲が旺盛であること。  
なお、募集専攻等は器楽専攻（ピアノ、弦楽器、管打楽器）である。

### 2 入学者の選考状況について

#### 2-1 飛び入学による受入状況（令和4（2022）年度実績）

募集分野(学部・学科等名)	募集人数	志願者数	入学者数
音楽学部 音楽学科 器楽専攻	若干名	0人	0人

#### 2-2 出願に際して大学として工夫していること

出願には学校長及び実技指導者による推薦書を必要としている。これは、出願者本人の同意の下に、本学が展開する教育研究分野(音楽)における特に優れた資質に関して行われるものであり、推薦にあたっては、高等学校関係者と大学関係者が積極的に意見交換、連携に努めるものとしている。

#### 2-3 具体的な選考方法及び選考方法についての工夫

##### ・選考方法

- 1 次試験：書類審査（音楽歴(コンクール入賞歴、演奏歴等を含む)、学校長による推薦書、調査書、師事状況(実技指導者による推薦書)等)
- 2 次試験：実技試験および面接

・選考方法について工夫していること(出題内容・出題意図等)

1次試験(書類審査)に加え、2次試験における実技試験は、一般選抜より難易度の高い課題をリサイタル形式で実施しており、様々な視点から学生の資質・能力を評価し、総合的に合否を判定している。

### 3 入学後の教育内容及び指導体制について

#### 3-1 教育内容の特色

特に専門実技に関して、主指導教員及び副指導教員による複数指導体制とするほか、必修となっている学科科目については能力別クラスに分け、当該学生の学力に応じた学修環境を整備している。

#### 3-2 指導体制の特色

指導教員のほか、教務課及び学生支援課職員による定期的な面談を実施し、教育面だけでなく学生生活面における支援体制を整備している。

#### 3-3 学生の在学状況

入学年度	受験者数	入学者数	在学者等
令和5(2023)年度	0人	0人	0人

※令和5(2023)年度入試より募集開始

### 4 大学と高等学校等との連携に関する取組状況

- ・本学附属高等学校生徒の実技レッスンを本学教員が担当
- ・本学附属高等学校生徒が大学の一部授業に参加
- ・本学学生と附属高等学校生徒による合同演奏会の実施
- ・学校法人創志学園クラーク記念国際高等学校東京キャンパス(東京都新宿区)「パフォーマンスコース」の2年生を科目等履修生として受入れ、本学声楽専攻生が1年次に履修する「ヴォイストレーニング」で連携授業を実施
- ・公開レッスン等を高校からの要望により適宜実施

## 5 自己点検・評価の総括及び今後の取組

### 5-1 飛び入学に関する自己点検・評価の総括

飛び入学試験の趣旨に則った入試方法・試験科目を設定し、受験時の高等学校との連携、あるいは入学後の指導体制についても方針を定めている。

しかし、制度開始初年度ということもあり、まだ受験生及び入学生がいないことから、広報活動を積極的に展開する必要がある。

### 5-2 今後の取組

上述のとおり、本学付属高等学校とは、本学教員が生徒への実技指導を行っているほか、一部の大学授業科目に生徒が参加するなど、日常的な交流も盛んであることから、飛び入学後の情報交換や連携も比較的容易であると考えられる。まずは付属高等学校からの飛び入学者確保に向けた取組を推進し、実績を積むことが現実的であろう。